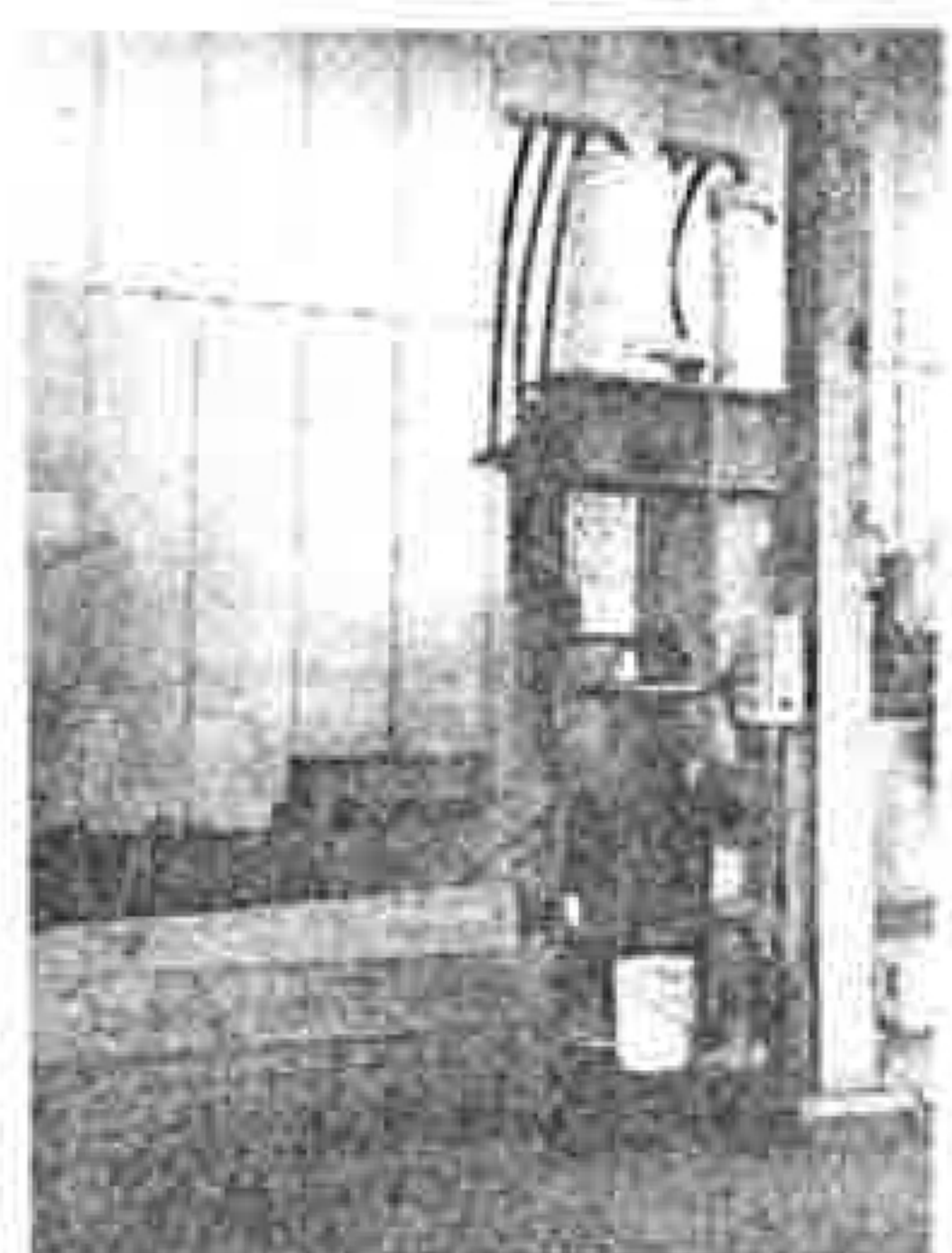
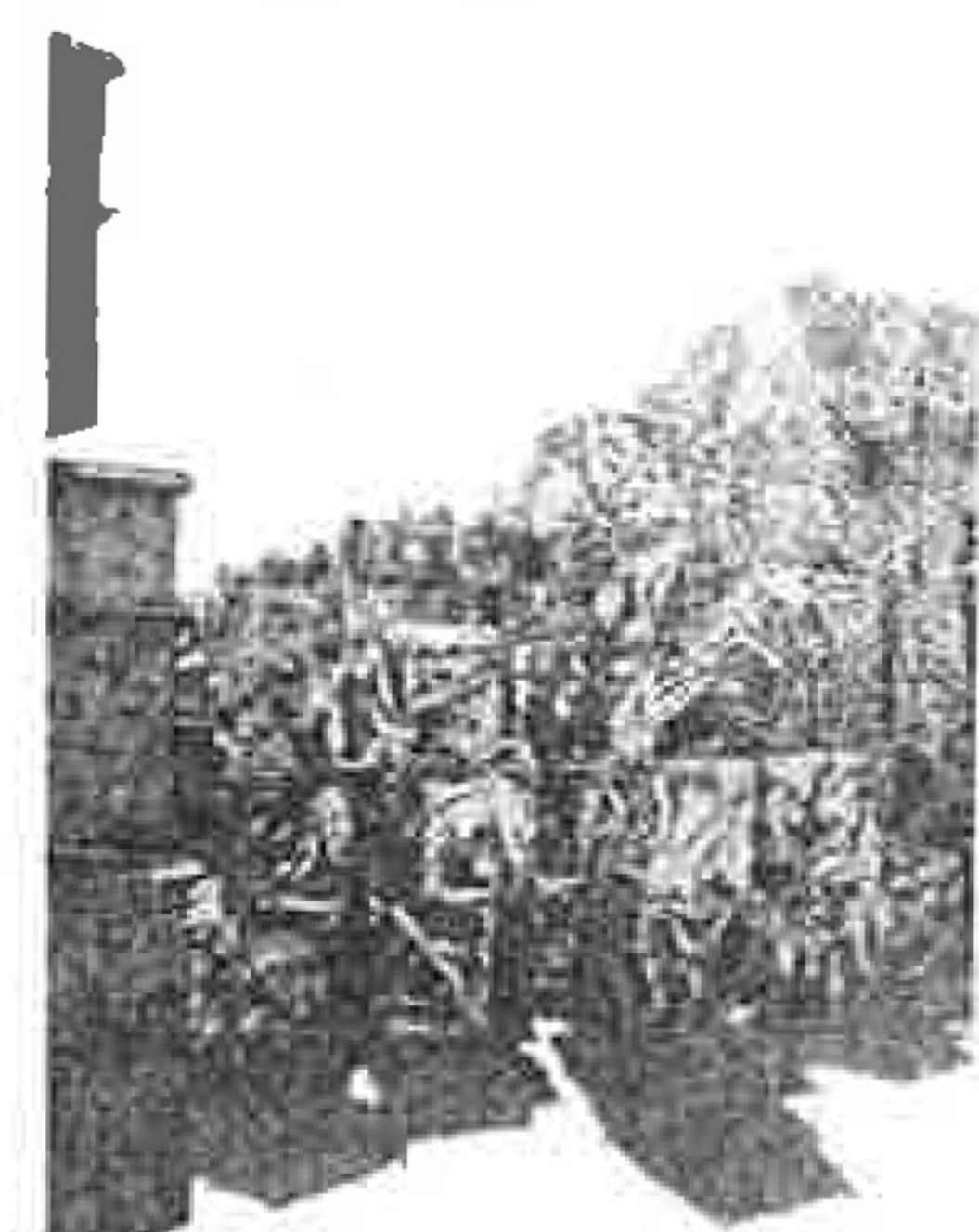




アルミや電線を処理するヤード①と自社開発マシン

地域密着で多品種扱い

非鉄および鉄原料を取扱う秩父回収資源（本社＝埼玉県秩父郡皆野町皆野102、小澤通利社長、☎0494-6210870）は、大正3年（1914年）の創業以来、地域密着型の資源再生業社として秩父地方の産業とともに100年近い歴史を歩んできた。

秩父地区は、標高約1300mの武甲山から採掘される石灰石を使ったセメント産業が基幹産業だ。太平洋セメント、三菱マテリアルなどを頂点とした産業レミッドから発生



小澤社長

秩父回収資源

創業98年、業容拡大目指す

国道140号線から見える本社工場



するスクラップが多く、他製造業の工場も少なくない。同社の取り扱いの内訳は、銅（電線含む）100t、アルミ100t、ステンレス20t、鉄1000tなどに加え、特金や廃バッテリーなどあらゆる原料を受け入れる。月

間取扱量は合計すると1000～1100tほど。3代目社長の小澤通利氏は、「セメントのプラントやそれに付随する鉄鋼業、建設業、解体などからさまざまなスクラップが発生するので、顧客の要望に応えようとした何でも

取り扱う業態になった」と話す。長年の取引先から販売先への信頼も厚く、原料は非鉄・鉄ともメーカーへの直納が大半を占める。ただ、現在は景気の低迷を受け、「セメント産業からの発生はピーク時の数分の1に減っている」（小澤社長）。

ただ、買い取りの強化や仲間業者からの買い入れを増やして対応し、総取扱量は堅調に推移している。本社工場の敷地面積は約3000平方メートル。07年には建屋を防音・耐震化して大幅改修し、今年3月には稲垣製作所製の600tギロチンシャーリングを導入した。

近隣に位置する電線リサイクル工場（約7000平方メートル）では主に電線スクラップを集荷し、乾式選別機で銅ナゲットを月30～40t製造している。また、長年の企業努力が認め

られ、01年には家電4品目の指定引受場所としてAグループ（松下電器・東芝ほか）の認定を受け、以後10年以上にわたって廃家電の取り扱いも行った。ただ、管理にコストが掛かり、同工場内の電線リサイクルがおろそかになってきたため、「電線に特化した」（同）と指定引き取り所はこの6月に辞退した。

今後は設備投資や人員の増員でさらなる業容拡大を目指す。来年初めには環境対策としてエコアクション21の取得も予定している。12年8月期の売り上げは12億円となる見込み。社員数は11人。主要設備は600tギロチンシャーリング1基、プレス2基、50t台秤、放射能検知ゲート、トラック8台、フオークリフト6台、シヨベル4台、金属成分分析器など。

内容を非鉄金属や雑品、廃プラスチックなどを素材別に分類し、それぞれ扱っている商品を紹介。非鉄スクラップはアルミや銅、ス

川崎ヤードなど国内5拠点の外観写真やアクセスマップ、扱い製品、保有設備などを紹介するほか「ビジネスパートナー」の項目では、海外で展開する合弁会社のヤード写真なども掲載している。

アルミ・スクラップ動向

アルミ原料は先高値上げは避けたい。気配。海外アルミ相場高が主因。二次合金メーカーと原料問屋による9月後半分値決め交渉は来週スタートする。問屋業者は一段高を目指す構え。大手問屋は「ウワ物キロ7円、スソ物5円上げをメーカーに打診する」。

先高気配

これに対して合金メーカーは「大幅な得ない」のも事実。このためメーカー各社は「5円以下に抑えた意向。メーカーの買い気は盛り上がり、に欠けるが、問屋業者に売り急ぐ気配は見られず、ヤードに積み上げるところも少なくない。

合金メーカー購入平均価格

（本社調べ、キロ当たり円、問屋置き場現金）

	7月 下旬	8月 下旬	9月 13日
▽新切れ	138	138	133～138
▽63S	138	138	133～138
▽一品合金	125	125	120～125
▽印刷板	140	140	135～140
▽ベースメタル	167	167	162～167
▽機械鋳物	119	119	114～119
▽合金新	111	111	106～111
▽合金削り粉	97	97	92～97
▽缶プレス(A)	96	96	91～96